

エリアウェブ

峡東教育事務所
 地域教育支援スタッフ
 TEL 0553-20-2731
 FAX 0553-20-2733

◎回覧・配付をお願いします。増し刷り配付はご自由どうぞ。峡東教育事務所のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

◎ご意見・ご感想、情報提供はこちらまで。Email :adachi-scje@pref.yamanashi.lg.jp



「子どもたちとメディア」

近年、子どもたちの生活環境に大きな影響を与えているものに、スマホなど情報機器とSNS(ソーシャルネットワークサービス)などのネットワークメディアの存在があります。これらが現代の情報化・グローバル化社会を生きていくために必要不可欠なアイテムであることは多くの人が認めるところです。しかし、活用方法によっては子どもたちに非常に大きな「負の影響」を与えてしまうのではないかという警告が、様々な団体や組織が開催する講演会・フォーラム・研修会等で発せられるようになりました。その内容は、生活習慣と学力の関わり、コミュニケーションのあり方、ネット内でのトラブルやいじめ、さらにはネットを利用した犯罪、そして心身の健康についての問題など、非常に多岐にわたる視点からの論議や提起がなされています。

仙台市の小児科医で『メディアにむしばまれる子どもたち～小児科医からのメッセージ～』の著者である田澤耕作氏は、小児科外来にやってくる子どもたちの姿から、メディア漬けになっている子どもたちの実態を明らかにしています。(以下一部抜粋)

テレビ・ビデオ・ゲーム・スマホなどのメディアとの接触が一日四時間以上に及びメディア・ヘビーユーザーの子どもたちに現れる症状が「慢性疲労」であり、その原因は前頭葉の機能低下である。前頭葉は「笑顔・言葉・感性」を司るとともに、「記憶力・集中力・判断力・気力・抑制力・社会力、そして自尊心とメタ認知力(自分の考えや行動を客観的に把握する力)」を担う、人間にとってたいへん重要な脳である。その前頭葉の機能が低下した子どもは「感情の平坦化」を生じさせて「笑わない子ども」「無表情の子ども」になる。同時に頭痛・微熱・悪寒・筋力低下などの身体的な症状が現れ、それが長期化すると心の成長に悪影響を及ぼして「大人になれない子ども」をつくってしまう。それが不登校やいじめの原因にもなり、さらには子ども同士の殺人事件のような悲惨な出来事にもつながっていく。そして過剰なメディア漬けは、①親子の絆が希薄のまま、②社会力の土台が形成されない、③心の発達が遅れる、④コミュニケーションやパーソナリティの確立が阻害されるという四つの弊害をもたらす。…

さらに田澤氏は「子どもに真実を直言し、子どもの自尊心を支え、さびしい世界からの帰還を手助けするためのタイムリミットが迫っています。再度、『勇気と知恵』を手にして立ち上がる時です。」と締めくくっています。

昨年11月の峡地連主催「人権のための講演会」において、講師の山脇由貴子氏も、「インターネットによっていじめは変わった」「子どもたちは匿名性を得たと勘違いするために気軽にいじめを始められる」「嘘の噂を執拗に流して拡散させる」「インターネット上のいじめはエンターテインメント化しエスカレートしていく」等、インターネットによって深刻化しているいじめの生々しい実態を語っています。そして、スマホ依存に対する警告として、次のように述べました。「最近のお母さんって、ミルクをあげながらスマホをいじっていますよね。赤ちゃんの目には何が見えているのでしょうか？これって、この先にすごくたいへんなことが起こると思います。」

今、スマホなどの情報機器とネットワークメディアの問題について、教師として、親として、また地域の大人として、私たちはどのように対処していかなければならないのか、より危機感を持って考えていく必要があるのではないのでしょうか。

子どもたちを取り巻く様々な問題について、地域全体でその実態や課題について知る機会をもち、進むべき方向性を共有して連携した取組を行うことが大切だと考えます。今後も「地域の子どもは地域で育てる」という基本理念のもと、次代を担う子どもたちの健全育成のために、峡東地域教育の取組の輪を広げ、継続していきましょう。

Let's Try 百人一首

山梨市子どもクラブ指導者連絡協議会

1月30日(土)、根津記念館において「Let's Try 百人一首」が開催され、小学生の親子など約30人が参加して、日本の伝統文化を楽しみました。上の句から下の句へと詠み上げられるたびに、子ども達は瞬きもせず札を探して、元気に札をとり合っていました。中には、上の句を読み上げている最中に札をとる子どももいました。大人も夢中になって子どもたちと楽しい輪をつくっていました。「Let's Try 百人一首」は、市文化協会短歌部有志の方々の指導と協力により、10年ほど続いているということです。主催者側は、「今の子どもたちはゲーム機で遊ぶことが多くなったが、お正月などには家族で百人一首をして楽しんでほしい。今日は、子どもを中心に世代間のよい交流の機会にもなった。」と話していました。



放課後子ども総合プラン指導者研修会

放課後子ども総合プラン推進委員会

県子育て支援課/県社会教育課

「放課後子ども総合プラン」は、厚生労働省所管の「放課後児童クラブ」と、文部科学省所管の「放課後子ども教室」の連携や一体的運営によって、放課後の子どもたちの安全で健やかな活動場所の確保を図る総合的施策です。

この「放課後子ども総合プラン」に携わるすべての方を対象とした指導者研修会が5回にわたって開催され、市町村の放課後子ども総合プランの担当者やコーディネーター、放課後児童クラブおよび放課後子ども教室の指導者など多くの関係者が参加しました。研修会の内容は、「放課後児童クラブ」や「放課後子ども教室」ですぐに活かせるレクリエーションやゲーム、アニメーションを通じた読書活動、簡単工作、子どもたちの理解と支援の方法、防犯対策など多岐にわたるものでした。参加者たちは和気あいあいとした楽しい雰囲気の中で、各プログラムに熱心に取り組んでいました。



第4回 簡単工作



第5回 防犯対策

ワクワク子育て親育ちプログラム学習講座

県社会教育課

県社会教育課では、少子化対策のひとつとして、親同士が学び合うことで子育ての不安や悩みを解消し、より多くの親に子育ての楽しさを実感してもらうとともに、これからの子育てを担う若者たちにも子育てに対する夢をもってもらうために『やまなしワクワク子育て親育ちプログラム』の冊子を作成し、県内の保育所(園)・幼稚園、小中学校、高等学校、特別支援学校、大学に配布しました。さらにプログラムを使っでの学習講座を6回にわたって開催し、全ての課程を修了した33人に修了証が交付されました。

今後、PTAの研修会や子育て支援事業などにおいて、プログラムが積極的に活用されるとともに、講座修了者が研修会の場でファシリテーター(グループでの学習・討議の進行役)として活躍していただくことで、「子育ては楽しい」「子育てによって親自身も子どもとともに成長できる」といった意識が社会全体に広まっていくことが期待されます。



学習講座の様子



修了証の交付

心をはぐくむ『あいうえお』 家読(うちどく)推進運動

山梨県教育委員会 社会教育課
しなやかな心の育成プロジェクト



山梨県教育委員会では、自分や他人の生き方・存在を認め合い、自他を敬愛する、子どもたちの「しなやかな心」を社会全体で育てるために「しなやかな心の育成プロジェクト」を推進しています。プロジェクトの一環として、大人としての大切な心かけについての標語〈心をはぐくむ「あいうえお」〉の呼びかけと、読書をきっかけに家族のコミュニケーションを深める

「家読(うちどく)推進運動」に取り組んでいます。

家族と一緒に読書を楽しむ時間を過ごして、そこから広がるコミュニケーションを大切にすることが「家読(うちどく)」の基本です。きっと我が子の成長を確認できる機会を得られることと思います。まずは、夕食後や就寝前の10分ほどから始めてみませんか？

〈心をはぐくむ「あいうえお」〉

あ ありがとう ごめんなさい 素直な心育てます
い 一緒に読書 家族の会話ははずみます
う うちの子も よその子も 同じ気持ちで叱ります
え 笑顔で声かけ 元気にあいさつ 地域に広がる思いやり
お 教えます いけないことは いけないと

◇◇◇ 地域教育推進事業を振り返って ◇◇◇

本年度、峡東教育事務所が行った地域教育推進業務のうち、主なものをあげながら1年間を振り返ってみたいと思います。

◆ 峡東地域教育推進連絡協議会の運営 ◆

- 《総会》 7月2日(木) 山梨市民会館 参加者53名
- 《子育て講演会》 7月2日(木) 山梨市民会館 参加者191名
講師 山村 裕志 氏(教育研究家)
「子どもたちの生きる力を育む、いまからやっておく習慣づくり
～たったこれだけのこと、でも10年後には大きな差になる行動習慣～」
- 《保幼・小・中連携セミナー》 8月20日(木) 甲州市民文化会館 参加者114名
事例発表①《保幼小連携》「奥野田保育所・奥野田小学校の取組」
発表者：奥野田保育所 牧野正美所長／奥野田小学校 植原恵子教諭
事例発表②《地域連携》甲州市の取組「地域コーディネーターから見た保幼・小・中の連携」
発表者：甲州市教育委員会地域コーディネーター 内藤 義仁 氏
グループでの話し合い
- 《人権のための講演会》 11月17日(火) 笛吹市いちのみや桃の里ふれあい文化館 参加者137名
講師 山脇 由貴子氏(山脇由貴子心理オフィス代表・元東京都児童相談センター児童心理司)
「現代のいじめの実態と解決のために～子どもの人権を守るために、大人のできること～」
- 《実務者会》 平成28年度1月19日(火) 東山梨合同庁舎 参加者16名

*講演会は、民間企業や児童相談所での豊富な実践経験をお持ちの方を講師に迎え、セミナーでは管内の方に実践事例の発表をしていただきました。現場を踏まえた説得力のあるお話や、すぐに取り入れる身近な実践ということで、例年以上に多くの方にご参加いただくとともに、3回とも事後アンケートで95%を超える参加者から肯定的な評価をいただきました。

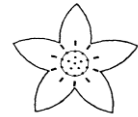
*『エリアウエップ』では、峡東地域三市の子どもの育成の取組、地域と学校との連携の取組、NPOによる子育て支援の活動、県立学校の活動等を紹介してきました。多くの方々取材への御協力をいただいたおかげで、地域の皆様の活動の様子をお伝えすることができました。

*各講演会・セミナーの「事後アンケート」、峡地連の会員対象の「活動に関するアンケート調査」でお寄せいただいた声を基にして、来年度の活動がさらに身近で充実したものとなるようにしていきたいと思っております。

本年度の地域教育情報誌『エリアウエップ』はいかがでしたでしょうか。地域の方々の「地域の子どもは地域で育てる」という熱意と活発な取組の様子を、できるだけ多くの方々にお伝えしたいという思いで取材と情報誌作成をしてきました。限られた誌面ではありますが、皆様の地域教育活動の一助になれば幸いです。一年間ご愛読いただきありがとうございました。



山梨県立ろう学校



昭和36年校旗樹立

校章「やまなし」の花

本校は幼稚部・小学部・中学部・高等部の4つの学部と支援教育部からなる、県下で唯一の聴覚障害教育専門の学校です。支援教育部では、早期教育と通級による指導及び教育相談を行っています。また、異年齢の仲間との集団生活を通して様々な経験ができる寄宿舎もあります。本校は各学部および寄宿舎において学校間における交流教育(学校間交流)と地域における交流活動(地域交流)を行っています。今回は、各学部の地域交流の活動を報告します。

【 幼 稚 部 】

○提携先—山梨陶磁会

幼稚部では山梨陶磁会と一緒に親子陶芸教室を行っています。今年17年目となります。子どもたちの豊かな発想を大切にしながら、どのように陶芸に楽しみ、表現していくのか子どもたちや保護者にも丁寧に指導していただきました。



【 小 学 部 】

○提携先—山梨市立養護老人ホーム「晴風園」

子どもたちは、核家族化でお年寄りとお過ごすことが少なくなっています。交流を重ねる中で、おじいさんやおばあさんは、ゆったりしていて温かいまなざしで見守ってくれていることを知りました。だから一緒に活動したい思いを持ち、交流を楽しみにしています。子ども達にとって大事な交流となっています。



【 中 学 部 】

○提携先—JA フルーツ山梨加納岩支所

桃の摘果や袋かけ作業の体験を通して、地域産業の現状を知ったり仕事の厳しさを体験したりしました。また、共選所で箱詰めや箱折り等の出荷作業を行い、作業手順や商品を扱う仕事を学び、一つ一つの作業が大切であることを学習することができました。地域の方との交流や作業体験を通して、「働くこと」について知ったり考えたりすることができました。

【 高 等 部 】

○提携先—山梨クリナース・山梨授産園・山梨陶磁会

山梨授産園の方々と山梨陶磁会会長の指導を受け、陶芸教室を行いました。互いの障害を理解し合いコミュニケーションをとることに難しい場面もありましたが、作品を一緒に制作することで、交流を深めることができました。山梨クリナースとの交流では、職業体験としてクリーニング作業を行いました。自分の進路において「働くことの意義」をみつめ直すことができ、作業をしながら利用者の方や指導員の方と自然な形で交流することができました。



【 寄 宿 舎 】

○提携先—大野地区・手話サークル『ふえふき』

大野地区とゲートボール交流を行いました。真剣勝負を通しての交流が大野地区の方々との絆につながっています。手話サークル『ふえふき』とは、長年の積み重ねがあり、舎生の成長を見守っていただいています。

